

2025年度 佐久長聖中学校 自己評価

目指す学校像	教育理念「自由と愛」のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重し、楽しく充実した学校生活を通して、生徒たちが魅力的な人間に成長できる環境整備を積極的に推進する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 魅力ある授業を生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。 生徒の進路実現に向けて、進路指導体制の発展に努める。 生徒との前向きな対話のある 生活指導・学級運営を行う。 心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。 学校の教育活動を生徒や保護者、本校志願者、地域に対し、幅広く情報発信を行う。
------	--

評価
A: 十分
B: 概ね十分
C: やや不十分
D: 不十分

	評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導 進路指導	生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に取り組む態度を育む授業が行えたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ■高校範囲やプラスαの要素も授業に加えて、主体的に問題に取り組もうとする態度を育めた。 ■パワーポイントを使って授業に対する興味を引き出した。また、画像を見ながら問いを設定して考えさせた。 ■授業の中で活発な意見交換や意見が出るような導入の工夫、雰囲気や大事にできた。 ■調査前の学習会や寮での質問部屋で質問対応できた生徒に対しては、モチベーションを上げる取り組みができた。 ■パワーポイントによるスライドを使用して、教科書・資料集にない情報をビジュアル的に提示することで、生徒の関心を喚起できた。また、単なる事実の羅列に終わらないように、事象の因果関係・意味を重視することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■継続した、関心の持ちやすい題材が前提として必要であった。 ■内容の高度さ等に対して、苦手意識を持ってしまって、諦めてしまう生徒がいた。 ■理解度が低い生徒へのケアの時間が十分に取れなかった。 ■授業をいかに自主学習への時間につなげていけるかが課題であった。 ■意欲のない生徒への発問の難しさがあつた。 ■国語の嫌いな生徒への対策ができなかった。 ■全学年の授業を担当したことで、内容が広く浅くなってしまった。 ■進度を気にするあまり、生徒同士の話し合いや探究するような時間をほとんど取ることができなかった。また、進度の効率化を図っていたが、やはり授業で扱う内容を精選することが必要であった。
		問題発見力、課題解決力、表現力、コミュニケーション能力を養う授業を展開できたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ■「なぜ」という問いを持ちやすい発問の設定、トピックについて話し合いの機会の確保ができた。 ■概ね良い作品を制作できた。ポスターコンクール・絵画・立体作品共に、多数最優秀賞を受賞することができた。 ■発想力・技術面・忍耐力の成果であったと思う。 ■実験の際に、コミュニケーションを取りながら協力してデータをとり、そこから何が分かるかを話し合い、解決(まとめ)に結び付けることができた。 ■英語を普段の日常会話から多用することができた。 ■時事問題を通して、問題解決力・課題解決力を身に付けられるように授業で工夫することができた。 ■発表の回数を増やして、単元終了時に自分の考えを記入させるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ■発問の工夫、話し合うに十分な内容を備えたトピックの選定が必要であった。 ■美術は、無から有を生み出す過程がとて大変なので、そういう経験をしてこなかった生徒にとっては苦しい授業のため、如何にそのような生徒にやる気を出させるかが課題であった。 ■班の中で消極的で受け身の生徒に対しても活躍の場を与えたかった。 ■理解度の低い生徒のやる気を引き出しにくかった。 ■ロイロノートで課題に取り組ませたり、Googleクラスルームを活用したりするなどして、生徒がICT機器を使って主体的に取り組む場を作っていきたい。 ■型にとらわれず、目の前の生徒の現状を理解することに努めたい。
		生徒の希望進路を実現するために、大学入試についての研究を行い、生徒個々に対応した指導が行えたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ■読解力、思考・判断力を向上させて、入試に対応できる教科指導を行った。また、学力推移調査など個々の結果の推移を分析して、面談・懇談で助言を与えることができた。 ■共通テスト・入試問題を扱うことで、数年後の本番を意識させるとともに、高校進級後のカリキュラムを説明することで、文理について考えさせるきっかけを与えることができた。 ■中学2年生は、基礎学力や将来の職業についてなどのキャリア教育が必要な時期であると感じた。 ■大学入試での出題内容を意識した授業展開や授業内容を盛り込めた。また、見直しノートで生徒個々へのコメントを行ったり、個別に学習方法の相談に乗ったりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■中学校と高校が離れているために、中学教員と高校教員の密な連携が必要である。 ■今やっていることに付いていくことが精いっぱいの子供にとっては、まだピンとこないことが多くて、実感が持てていない。 ■大学入試を意識できるような解説・設問を扱っていきたい。 ■生徒の希望進路実現のための大学入試の研究や生徒個々に対応した指導は、高校進級後でも遅くないと思う。 ■3年後、4年後をより身近に感じさせる工夫が必要であった。 ■より生徒個々のそれぞれのレベルに対応できる授業内容にしていきたい。また、質問や相談を受ける以外にも、こちらからの個々への働きかけをもっとできれば良かったと思う。
		大学のさらに先を意識しながら進路を考えられるようなキャリア教育や進路指導を実践していたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ■新聞・ニュース・読書を通して、自分の世界を広げるような働きかけができた。また、インターネットを利用して興味のある分野の研究を行っている大学の講義を視聴して、A4用紙1枚にまとめさせた。 ■折に触れて、卒業生の大学進学とその後の職業などを紹介することができ、それがキャリア教育としても少し役に立ったのではないと思われる。 ■職場体験をもとにキャリア教育を行うことができた。 ■職場体験・探究活動の指導を通して、これから必要とされる物事の捉え方や思考、発表の方法等を生徒と共にお互いに深めていくことができた。 ■変化していく時代の中で、自分たちに何が必要なのかを考えさせる場面をとった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分自身が何に向いているのか、何がしたいのか、まだ未確定の生徒がほとんどであるために、まずはいろいろな世界・選択肢・可能性があるということから知る必要がある。 ■単発的なものにさせるのではなく、今後の進路・社会生活に生かせるような指導を継続していきたい。 ■大学のその先を具体的に考えることやイメージさせることをより深くさせる必要がある。 ■目先の結果ばかりを気にする生徒に対して、その先を考えさせることが不十分であった。 ■社会科という教科の内容からして、授業内でも将来に繋がる教育・指導をもっと行えると思うので、生徒が授業内容を自分と大きく関わる問題として捉えられるように工夫したい。
2	生徒指導	校内外問わず、いじめ・暴力・SNSトラブルなどのない安心・安全な学校生活を送るための啓発活動を行い、情報収集を行えたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ■生活実態アンケートを通して、実際の生徒の様子を知るとともに、必要に応じて個別面談を行って、トラブルが起きないように働きかけた。 ■朝・昼食後の見回りをした。 ■いじめ・暴力・SNSトラブルなどのない安心・安全な学校生活を送ることができるよう、折に触れて情報提供・啓発活動をしてきた。 ■生徒の発言等については、その場で注意したり、学年職員を共有しながら、注意深く様子を見てきた。 ■生徒の訴えを随時聞き取るように心掛けてきた。 ■授業中や授業前後、休み時間などで、なるべく教室や廊下にいる時間を作り出して、生徒の様子をよく見るようにしていた。 ■また、学年の先生間での情報共有を密に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■生徒間のトラブル・生徒個々の内面的問題・家庭内の問題など、問題が多岐にわたるために、あらゆる方面との協力が欠かせないと感じた。 ■SNSの利用やトラブルは、極めてプライベートな側面が強いため、なかなか実態を知り把握することが難しかった。 ■全体にどのように促して、どう事前に防ぐかが課題であった。 ■情報収集後に、根絶に至る指導ができなかった。 ■どこまで指導を行うべきかの線引きが難しかった。 ■社会科の授業の中で、日本人と外国人についての発言を強い言葉で行う生徒がいる時に、注意しないわけではないが、もっと腰を据えて、発言に対する指導をしなければならぬと感じた。
		生徒に体罰や暴言と捉えられるような言動を行わなかったか。	A	<ul style="list-style-type: none"> ■丁寧に対応することができた。 ■自分自身の言動をしっかりとコントロールできた。 ■冷静な対応ができた。 ■規律ある授業を保つことができるように、優しい言葉で指導した。 ■授業でも個々のやり取りでも、生徒と接する時の言葉掛けや態度が乱暴なものや時代にそぐわないものにならないように注意してきた。 ■生徒に誤解を招いてしまうような発言があったかもしれないが、自分なりに言動には十分注意してきたつもりである。 	<ul style="list-style-type: none"> ■継続して高い意識を持った指導を心掛けていきたい。 ■生徒の対応に苦慮する場面もあった。 ■言葉には気を付けているが、生徒側に立った時に暴言として捉えられる可能性もあったと思う。 ■普段からしっかりと意識を持つことが大切であると感じている。 ■どのような表現で生徒に伝えていけるかが課題であった。 ■意図せず不快にさせたり、傷つけてしまったりすることがあるので、できるだけ周囲の先生方からの情報も取り入れていきたい。
3	保護者連携 地域連携	保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ■保護者からの連絡・相談には忘れることなく、きちんと対応することができた。 ■保護者には細かなこともしっかりと話すことができた。 ■問い合わせ時には即座に対応することができた。 ■保護者に対しては誠実に対応できた。 ■家庭との連絡は密に取ることができた。 ■保護者・外部からの声を直接耳にすることは少なかったが、担任の先生からの保護者の要望などに対応したり、学年活動を通してある程度対応したりすることができたのではないかと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■直接会う機会があるために、その際の信頼関係の構築が大事である。 ■学校側からもう少し情報発信するべきであった。 ■細かな要望に対して、どこまで対応できていたか振り返る必要がある。 ■必ずしもすべての事案に対して物事が改善できたわけではないが、良くなったり悪くなったりを繰り返しながら推移している事案もあるので、継続的な取り組みが必要であると思う。 ■どこまで対応すべきか、また対応できるかを考えるべきである。
		ホームページ・Classi等で積極的に学校・学年・学級・クラブ等の情報発信ができたか。	B	<ul style="list-style-type: none"> ■Classiで定期的に情報を発信するなど活用できている。 ■Classiに配信すれば、非常に高い既読率の情報を流すことができた。 ■月に一度のペースで、学級通信を発行・配信して情報を共有することができた。 ■学年活動を通して昨年度以上に情報を発信することができた。 ■また、Classiを通じて、各定期考査の個人成績表を保護者に配信することができた。 ■必要最低限の情報発信はできたと感じている。 ■2週間に一度は通信を発行するようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ■忙しい時は情報発信する内容が薄くなってしまったので、繁忙期の対応を考えたい。 ■長聖通信に載せる記事で、個人活動で活躍している生徒の情報を集めるのが課題であった。 ■ホームページでの情報発信がますます重要になってきているので、小さな話題も含めてできる限りこまめに更新していくべきである。 ■今まで以上に活動の様子を伝えていく必要があると感じている。 ■発信回数が昨年に比べて各段に減ったので、その点を改善していきたい。